

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102741		
法人名	社会福祉法人 守里会		
事業所名	グループホーム 邑		
所在地	高松市前田西町1080-18		
自己評価作成日	令和2年12月5日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	令和3年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり待つ介護:できることを見つけ、できることが増え、できることの達成感や充実感を共有し合える生活を支える」という理念のもと、入所者と一緒に喜びを感じることができるよう介護に取り組んでいます。どんな小さな発見でも職員同士の情報共有を欠かさず、家族との信頼関係の構築にも積極的に努めています。施設からはのどかな田園風景を見渡すことができ、自然の中で季節感を味わうことができます。また、認知症や事業所の理解を深めてもらうために、月に1回は地域のコミュニティーセンターで福祉相談を開いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は2階と3階にあり、リビングの窓からはのどかな田園風景が一望でき、季節感を感じる。理念の「ゆっくり待つ介護」を基に、職員は毎月1回、ケアカンファレンスを行い情報を共有している。利用者の得意とする分野の料理・洗濯干しやたたみなど今、できていることを長く続けられるよう利用者一人ひとりに寄り添いゆっくりと見守りながら支援している姿勢が伺える。コロナ禍で家族や友人との面会は中止している。遠方の家族には日常の写真を送付して喜ばれ安心感につながっている。利用者は穏やかな表情で利用者同士との会話や得意とする分野を活かしながら個々のペースでゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生き、活かし合う」という法人理念のもと、「ゆっくりと待つ介護」という施設理念をつくり、地域の中で互いに活かし合っていることを職員全体で共有しながら、地域交流を含めた実践を行っている。	事業所独自の理念を作成している。職員は個々の目標を掲げ、毎月のカンファレンスで振り返り見直している。全職員が理念を共有してケアに反映できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行以前は日々の散歩ではお互いにあいさつを交わしたり、野菜やお花をいただいたり、普段の生活の中で自然に交流が図れている。	地域の自治会に加入している。散歩時に挨拶したり地域や事業所の行事で地域の方と日常的に交流していたが現在、コロナ禍で外出の機会はない。職員が地域の一員として年4回、排水溝の清掃に参加して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は法人で地域福祉講演会を主催し、「わたしの町はみんなが家族」というテーマのもと、講演会や分科会の中で、認知症に関するあらゆる問題を地域住民をはじめとする様々な立場の参加者と共に考える機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開き、施設での取り組みや現状報告を話し合ったり、出席者からの質問や意見交換などで得られた情報を現場に反映させるよう努めている。	2カ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の現状報告、意見交換を行い、いただいた意見を運営に反映している。参加者は少ない。	地域の理解と支援を得るために運営推進会議に地域の自治会や民生委員の方が出席しやすい日程調整と議事録の見直し等の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで事業所の現状報告や取り組みを伝えるとともに、普段から連絡を取って助言をいただいている。	運営推進会議や様々な機会を通じて連絡を取って、助言をいただける協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年施設内において勉強会をひらき、身体拘束についての知識と理解を深め、各施設でケアに取り組んでいる。夜間以外は玄関を開放しており、入所者が自由に出入りできる環境になっている。	毎年4回、勉強会を開催し、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠していない。マニュアルは作成しているが身体拘束防止委員会は設置していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年施設内において勉強会をひらき、高齢者虐待についての知識と理解を深め、各施設でケアに取り組んでいる。また、家族との良好な関係を保つことで、普段から注意を払い早期発見や防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やリーダーは法人内外の研修や勉強会に参加することで知識と理解を深め、そこで得た知識を施設内の会議などにおいて他の職員にも伝え話し合う機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結などでは十分な時間を持ち、利用者や家族に理解してもらえよう努めている。また、こちらが一方向的に説明するのではなく、疑問や不安に感じていることを尋ね、安心して利用できるよう注意を払っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などに出席してもらうことで家族からの意見や要望を確認する機会を持っている。また、普段から家族との連絡を密にすることで、管理者や職員が要望にも早急に対応できるよう努めている。	家族の面会時や電話で意見・要望を聴いている。意見は職員で話し合い運営に反映している。コロナ禍で、面会に来られない遠方の家族に利用者の日常の写真を送付し喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が運営委員会に出席しており、出席者の意見・提案や助言などを聞く機会を持っている。また、施設内では会議を開いて職員の意見を聞き、それらを反映させている。	毎月1回のケアカンファレンスや日常業務の中でも話し合える職場環境である。職員の意見は内容により、管理者が法人の運営委員会で提案し、業務改善等に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの努力や勤務状況を把握することで職員全体がチームとなって働けるよう、現場の環境づくりに努めている。また能力や適性に応じて委員や担当を任せており、職員は向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会に参加することで知識の習得や介護技術の向上を図っている。また、委員や各担当などを任せることで責任感や積極性が持てるようになり、それを業務に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等の参加によって同業者や他施設の職員との交流や情報交換の機会を持っている。また、知り得た知識や情報をケアに活かすことでサービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に十分な時間を持って話し合いの機会をつくっている。そこで、要望や不安に感じていることを聞き、安心して利用できるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に十分な時間を持って話し合いの機会をつくっている。そこで、家族からの要望や不安に感じていることなどを確認し、信頼関係が構築・継続できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント聴取をしっかりと行い、入所してから1ヶ月間は初期ケアプランを作成している。その間に状態を把握し、ケアを含む今後の対応を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は様々な経験を積んだ人生の先輩として入所者と接しており、食事・裁縫・掃除などの暮らしの知恵を教わったり助言を得たりして良好な関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の中での困りごとや健康面に関する問題、また嬉しい出来事など、小さなことでも家族と情報を共有することでお互いの信頼を深め、入所者を一緒に支援できる関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以前は家族や友人を含む親しい方々との面会や馴染みの場所へ出掛けたりすることで、これまでの関係が途切れないよう支援を行っている。	コロナ禍で家族や友人等の面会は中止している。家族の面会は玄関で職員が対応している。家族・知人とは、電話で話し合い馴染みの関係が途切れなく継続できるような支援に努めている。清潔の観点から美容院は定期的に訪問してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って入所者同士の交流を深めたり、入所者同士で積極的に声を掛け合っているため、お互いに支え合い気遣える関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他のサービスを利用されている方などの近況・経過を確認したり、必要に応じて助言をすることで支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活を考慮しながら入所者一人ひとりの思いを汲み取り、ケアに活かしている。また、困難な場合は家族にも協力を得て、できる限り本人の望む生活が送れるよう支援に努めている。	職員は利用者2～3名を受持制にしている。日常の何気ない会話や行動から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から入居前の生活情報を得て、歌など得意な事を活かしながら暮らせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に確認しながら生活暦や生活環境を把握できおり、それを継続することでケアに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者一人ひとりの体の状態や残存機能を把握し、職員全員で情報共有することでケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて担当者会議を開き、課題やケアについて話し合っている。そこで出た意見を介護計画に反映させることで、現状に即した介護計画が作成でき、その計画に基づきチームケアに取り組んでいる。	職員は、毎月1回ケアカンファレンスを行っている。担当者会議で利用者・家族の意見や介護記録、職員の気づき等を話し合い介護計画に反映している。定期的見直しは6か月ごとに行っている。利用者の状態が変化した場合は随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入所者ごとに介護記録をつけて職員間で情報共有している。日々の変化や気づいたことを共有することで介護計画を見直しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している小規模多機能型施設や法人内の事業所と協力し、本人・家族の状況に応じて様々な支援を行うことで、ニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前は近所のスーパーへ買い物に出掛けたり、馴染みの美容室で散髪したりと地域資源を有効に利用し、入所者一人ひとりの生活を豊かにできるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に既往歴を含む本人の状態やかかりつけ医を家族に確認しており、受診の際には適切な医療を受けられるよう支援を行っている。家族が受診に付き添うことも多いため、施設での様子や体調等、普段から家族に伝えている。	利用者・家族の希望する医療機関で適切な医療を受けられるよう支援している。受診は家族または職員が同行している。受診結果は家族と職員で情報を共有している。2週間ごとに嘱託医の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行って記録するとともに、日々の変化や状態など施設の看護師に相談している。また、看護師から受けたアドバイスを職員全員で情報共有し、ケアに活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には服薬状況や施設での様子を伝え、適切な治療を受けられるよう医療機関に情報を伝えている。また、入院中の様子や変化を確認するとともに、早期に退院できるよう医療機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話し合いの機会を持ち、看取りについて本人や家族の希望を確認している。状態の変化がみられると、その都度家族と話し合っており、施設でできること・できないことを明確に伝えながら方向性を検討し、主治医を含む関係者と一緒にチームで支援を行っている。	入居時に、利用者と家族に重度化や終末期について説明を行っている。利用者の状態が変化した場合は、家族・医師・関係者で話し合い方針を決め、必要に応じて同意書を得ている。職員は方針を共有し、家族の意向に沿えるよう支援している。看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、新人職員は法人内で応急救護(AEDを含む)の勉強会に参加して、実技指導を受けている。施設内においてもマニュアルを作成しており、会議や勉強会で理解を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を実施している。地域の方々にも参加してもらい、速やかに避難できるよう訓練を行い、マニュアルを作成して全職員が避難方法を把握できるよう努めている。	マニュアルを作成して防火訓練を実施している。地域の方にも参加してもらっている。非常食も備蓄している。	昼・夜間を想定(年2回)した訓練を実施と、全職員が、いざという時に慌てず確実な避難誘導ができる経路の確認等について、共有できる取り組みを期待したい。参加した地域の方に、お願いする役割を具体的に示し、担ってもらえる取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者一人ひとりの性格やこれまでの暮らしを理解したうえで、その方に合った声かけや対応に努めている。また、入所者同士での会話でも、トラブルにならないようプライバシーに配慮しながら職員が見守りを行っている。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができています。職員の気になる言動についてはその都度、職員間で注意し合いサービスの向上に努めている。職員は、利用者同士のプライバシーにも配慮がうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・買い物・入浴など日常生活における小さなことでも、本人の希望を確認し自己決定できるよう努めている。また、自分の思いを伝えるのが困難な方にもなるべく自己選択できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者一人ひとりのペースに合わせて、毎日の過ごし方を考えている。職員本位にならないよう、入所者の生活のリズムを考慮しながら希望にそって支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣時には入所者と一緒に洋服を選び、その人らしいおしゃれが楽しめるよう努めている。普段から身だしなみには注意しており、清潔を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力や好きな事・得意な事などを考慮しながら食事の準備や後片付けを行っている。また、入所者から料理を教わることも多く、職員も一緒に食事を楽しんでいる。	家庭的に毎日の献立は、冷蔵庫の食材を基に利用者と相談し作成している。食材の買い出しは職員が行っている。職員は、下準備・味付け・後片付け等、一人ひとりの得意分野の力を発揮できるよう見守りながら一緒に行っている。コロナ禍で外食は中止している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや量を考慮しながらメニューを決めるとともに、毎日必ず食事・水分摂取量を記録している。一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供し、水分補給にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯・自歯の方それぞれの状態や能力に合わせて口腔ケアを行っている。口腔内の状態が食事と密接につながっているため、状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できるよう声かけや誘導を行ったり、入所者それぞれの習慣や能力に応じて布パンツ・紙パンツ・パットを使用している。	職員は排泄記録を基に、排泄パターンを把握している。さりげなく声かけやトイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援をしている。リハビリパンツから布パンツに移行できた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の記録をつけ、職員同士の情報共有に努めている。便秘気味の場合でも薬に頼り過ぎることなく、食事内容や水分補給に注意し、日中体を動かせる時間をつくるなど、便秘解消に励んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望される人を優先しながら、入所者の体調や気分を考慮して入浴していただいている。また、入浴に抵抗がある方にも声をかけ本人が安心して入れるよう支援を行っている。	週2回、個浴で入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者には、時間や声かけなど柔軟に対応している。同性介助を希望する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の気分や体調を考慮して休息の時間を持ってもらったり、夜間にしっかり眠れるよう日中の活動量を増やしたり、一人一人のペースに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬についての情報を職員全員で共有・理解し、服薬支援を行っている。また、症状の変化の確認に努め、家族や主治医との情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の得意な方、掃除好きな方、読書を楽しまれる方など、一人ひとりの生活歴や得意なことなどを活かした暮らしができ、それによって生活の幅がひろがるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ以前は近所の散歩やお花見・買い物など職員との外出以外にも家族との外食や買い物などそれぞれの希望を考慮した支援を行っている。また、他施設の行事に参加したり法人内での施設交流も積極的に行っている。	近隣の散歩や買い物、お花見、外食などはコロナ禍で散歩を含めユニット外に出ることを中止している。医療機関へ受診が唯一、外出の機会である。ベランダから見える田園風景や、金木犀の花の香りで気分転換や季節感を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は職員が管理しているが、使い道と一緒に考えて買い物などを楽しめるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などの郵便物は本人に手渡したり、介助が必要な方には手紙と一緒に読んだりとその人に合わせて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子やソファの配置をかえて模様替えをしたり、落ち着ける空間作りに努めている。また、花を生けるなど季節感を感じてもらえるよう配慮している。	共用の空間リビング、食堂は明るく整理整頓され換気や温度調節に配慮している。お花を掛けテーブルや椅子、ソファの配置など家庭的な雰囲気や季節感を採り入れている。利用者が好みの場所で個々のペースでゆったりと居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで皆と一緒に会話を楽しんだり、ソファで静かに読書したり、利用者がそれぞれのペースでゆったりと過ごせるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が実際に使用していたり、家族が選んだ家具や小物を持ってきてもらうなど、居心地の良い空間作りに努めている。	居室は和室と洋室があり、利用者の身体状況に応じて選択している。利用者の写真を飾ったり、馴染みの家具やテレビなどを持ち込まれ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最初はわからなくても時間をかけてできるようになったり、他の入所者と協力してできることを増やしていくなど、少しでも自信を持って自立した生活が送れるよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生き、活かし合う」という法人理念のもと、「ゆつくりと待つ介護」という施設理念をつくり、地域の中で互いに活かし合っていることを職員全体で共有しながら、地域交流を含めた実践を行っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行以前は日々の散歩ではお互いにあいさつを交わしたり、野菜やお花をいただいたりと、普段の生活の中で自然に交流が図れている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は法人で地域福祉講演会を主催し、「わたしの町はみんなが家族」というテーマのもと、講演会や分科会の中で、認知症に関するあらゆる問題を地域住民をはじめとする様々な立場の参加者と共に考える機会をつくっている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開き、施設での取り組みや現状報告を話し合ったり、出席者からの質問や意見交換などで得られた情報を現場に反映させるよう努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで事業所の現状報告や取り組みを伝えるとともに、普段から連絡を取って助言をいただいている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年施設内において勉強会をひらき、身体拘束についての知識と理解を深め、各施設でケアに取り組んでいる。夜間以外は玄関を開放しており、入所者が自由に出入りできる環境になっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年施設内において勉強会をひらき、高齢者虐待についての知識と理解を深め、各施設でケアに取り組んでいる。また、家族との良好な関係を保つことで、普段から注意を払い早期発見や防止に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やリーダーは法人内外の研修や勉強会に参加することで知識と理解を深め、そこで得た知識を施設内の会議などにおいて他の職員にも伝え話し合う機会を持つようにしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結などでは十分な時間を持ち、利用者や家族に理解してもらえるよう努めている。また、こちらが一方向的に説明するのではなく、疑問や不安に感じていることを尋ね、安心して利用できるよう注意を払っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などに出席してもらうことで家族からの意見や要望を確認する機会を持っている。また、普段から家族との連絡を密にすることで、管理者や職員が要望にも早急に対応できるよう努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が運営委員会に出席しており、出席者の意見・提案や助言などを聞く機会を持っている。また、施設内では会議を開いて職員の意見を聞き、それらを反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの努力や勤務状況を把握することで職員全体がチームとなって働けるよう、現場の環境づくりに努めている。また能力や適性に応じて委員や担当を任せており、職員は向上心を持って働いている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会に参加することで知識の習得や介護技術の向上を図っている。また、委員や各担当などを任せることで責任感や積極性が持てるようになり、それを業務に活かしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等の参加によって同業者や他施設の職員との交流や情報交換の機会を持っている。また、知り得た知識や情報をケアに活かすことでサービスの向上を図っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に十分な時間を持って話し合いの機会をつくっている。そこで、要望や不安に感じていることを聞き、安心して利用できるよう信頼関係の構築に努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に十分な時間を持って話し合いの機会をつくっている。そこで、家族からの要望や不安に感じていることなどを確認し、信頼関係が構築・継続できるよう努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント聴取をしっかりと行い、入所してから1ヶ月間は初期ケアプランを作成している。その間に状態を把握し、ケアを含む今後の対応を見極めるよう努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は様々な経験を積んだ人生の先輩として入所者と接しており、食事・裁縫・掃除などの暮らしの知恵を教わったり助言を得たりして良好な関係を築けている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の中での困りごとや健康面に関する問題、また嬉しい出来事など、小さなことでも家族と情報を共有することでお互いの信頼を深め、入所者を一緒に支援できる関係を築けている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以前は家族や友人を含む親しい方々との面会や馴染みの場所へ出掛けたりすることで、これまでの関係が途切れないよう支援を行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って入所者同士の交流を深めたり、入所者同士で積極的に声を掛け合っているため、お互いに支え合い気遣える関係が築けている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他のサービスを利用されている方などの近況・経過を確認したり、必要に応じて助言をすることで支援に努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活を考慮しながら入所者一人ひとりの思いを汲み取り、ケアに活かしている。また、困難な場合は家族にも協力を得て、できる限り本人の望む生活が送れるよう支援に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に確認しながら生活歴や生活環境を把握できおり、それを継続することでケアに反映できるよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者一人ひとりの体の状態や残存機能を把握し、職員全員で情報共有することでケアに活かしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて担当者会議を開き、課題やケアについて話し合っている。そこで出た意見を介護計画に反映させることで、現状に即した介護計画が作成でき、その計画に基づきチームケアに取り組んでいる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入所者ごとに介護記録をつけて職員間で情報共有している。日々の変化や気づいたことを共有することで介護計画を見直しケアに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している小規模多機能型施設や法人内の事業所と協力し、本人・家族の状況に応じて様々な支援を行うことで、ニーズに対応している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前は近所のスーパーへ買い物に出掛けたり、馴染みの美容室で散髪したりと地域資源を有効に利用し、入所者一人ひとりの生活を豊かにできるよう支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に既往歴を含む本人の状態やかかりつけ医を家族に確認しており、受診の際には適切な医療が受けられるよう支援を行っている。家族が受診に付き添うことも多いため、施設での様子や体調等、普段から家族に伝えている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行って記録するとともに、日々の変化や状態など施設の看護師に相談している。また、看護師から受けたアドバイスを職員全員で情報共有し、ケアに活かしている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には服薬状況や施設での様子を伝え、適切な治療が受けられるよう医療機関に情報を伝えている。また、入院中の様子や変化を確認するとともに、早期に退院できるよう医療機関との連携に努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話し合いの機会を持ち、看取りについて本人や家族の希望を確認している。状態の変化がみられると、その都度家族と話し合っ、施設でできること・できないことを明確に伝えながら方向性を検討し、主治医を含む関係者と一緒にチームで支援を行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、新人職員は法人内で応急救護(AEDを含む)の勉強会に参加して、実技指導を受けている。施設内においてもマニュアルを作成しており、会議や勉強会で理解を深めている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を実施している。地域の方々にも参加してもらい、速やかに避難できるよう訓練を行い、マニュアルを作成して全職員が避難方法を把握できるよう努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者一人ひとりの性格やこれまでの暮らしを理解したうえで、その方に合った声かけや対応に努めている。また、入所者同士での会話でも、トラブルにならないようプライバシーに配慮しながら職員が見守りを行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・買い物・入浴など日常生活における小さなことでも、本人の希望を確認し自己決定できるように努めている。また、自分の思いを伝えるのが困難な方にもなるべく自己選択できるように働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者一人ひとりのペースに合わせて、毎日の過ごし方を考えている。職員本位にならないよう、入所者の生活のリズムを考慮しながら希望にそって支援を行っている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣時には入所者と一緒に洋服を選び、その人らしいおしゃれが楽しめるよう努めている。普段から身だしなみには注意しており、清潔を心がけている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力や好きな事・得意な事などを考慮しながら食事の準備や後片付けを行っている。また、入所者から料理を教わることも多く、職員も一緒に食事を楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや量を考慮しながらメニューを決めるとともに、毎日必ず食事・水分摂取量を記録している。一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供し、水分補給にも努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯・自歯の方それぞれの状態や能力に合わせて口腔ケアを行っている。口腔内の状態が食事と密接につながっているため、状態の把握に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できるよう声かけや誘導を行ったり、入所者それぞれの習慣や能力に応じて布パンツ・紙パンツ・パットを使用している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の記録をつけ、職員同士の情報共有に努めている。便秘気味の場合でも薬に頼り過ぎることなく、食事内容や水分補給に注意し、日中体を動かせる時間をつくるなど、便秘解消に励んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望される人を優先しながら、入所者の体調や気分を考慮して入浴していただいている。また、入浴に抵抗がある方にも声をかけ本人が安心して入れるよう支援を行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の気分や体調を考慮して休息の時間を持ってもらったり、夜間にしっかり眠れるよう日中の活動量を増やしたり、一人一人のペースに合わせて支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬についての情報を職員全員で共有・理解し、服薬支援を行っている。また、症状の変化の確認に努め、家族や主治医との情報共有を図っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の得意な方、掃除好きな方、読書を楽しまれる方など、一人ひとりの生活歴や得意なことなどを活かした暮らしができ、それによって生活の幅がひろがるよう支援に努めている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は近所の散歩やお花見・買い物など職員との外出以外にも家族との外食や買い物などそれぞれの希望を考慮した支援を行っている。また、他施設の行事に参加したり法人内での施設交流も積極的に行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は職員が管理しているが、使い道と一緒に考えて買い物などを楽しめるよう配慮している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などの郵便物は本人に手渡したり、介助が必要な方には手紙と一緒に読んだりとその人に合わせて支援を行っている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子やソファの配置をかえて模様替えをしたり、落ち着ける空間作りに努めている。また、花を生けるなど季節感を感じてもらえるよう配慮している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで皆と一緒に会話を楽しんだり、ソファで静かに読書したり、利用者がそれぞれのペースでゆったりと過ごせるよう心がけている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が実際に使用していたり、家族が選んだ家具や小物を持ってきてもらうなど、居心地の良い空間作りに努めている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最初はわからなくても時間をかけてできるようになったり、他の入所者と協力してできることを増やしていくなど、少しでも自信を持って自立した生活が送れるよう努めている。